

MAVIC PRO

免責事項および安全に関するガイドライン

V1.0 2016.09



目次

安全についての概要	4
注記	6
用語集	6
フライト前チェックリスト	6
免責事項および警告	7
使用を開始する前に	9
各部部品	9
純正部品と機能部品について	9
送信機	9
カメラ	10
ジンバル	10
コンパス	11
推進システム	11
アプリ	12
ファームウェア	13
内蔵ストレージデバイス	14
本製品の手入れ	14
保管と輸送	14
メンテナンスと保管	15
フライトの必須条件	15
気象条件と周辺環境	15
フライトコントローラ、通信、ポジショニングシステムとの干渉	15
責任をもった機体操作	16
フライトモード、機能と警告	17
フライトモード	17
フェイルセーフとRTH (Return-to-Home)	17
低バッテリー	18
ピジョン・ポジショニング・システム	18
TapFly (タップフライ)	19
ActiveTrack (アクティブトラック)	19
規制順守と飛行不可ゾーン	20
規制	20
飛行不可ゾーン	21

安全についての概要

1. 環境に関する考慮事項

- 必ず建物などの障害物がない場所で飛行させてください。
- 大勢の人が集まっている場所やその付近では飛行させないでください。
- 120 m (400 フィート) を超える高度での飛行は避けてください。
- 海拔 5,000 m (16,404 フィート) 以上を飛行させる場合は、十分に注意してください。
- 気温 0 ~ 40 °C (32 ~ 104 °F) の穏やかな気象条件で飛行させてください。

2. フライト前チェックリスト

- 送信機と機体のバッテリーが完全に充電されていることを確認します。
- プロペラが良好な状態で、しっかりと締め付けられているか確認します。
- モーターに障害・損傷がないか確認します。
- コンパスのキャリブレーションは、DJI GO™ アプリまたはステータスインジケータから要求された場合にのみ行ってください。
- カメラのレンズがきれいで、汚れがないか確認してください。

3. 操作

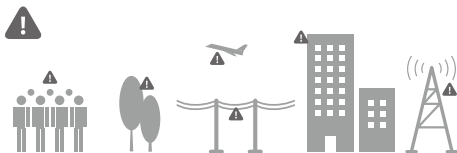
- 回転中のプロペラやモーターには近づかないでください。
- 機体から常に視線をそらさないでください。
- 飛行中は電話の着信に応答しないでください。
- 飲酒または服薬時には、飛行させないでください。
- リターントゥホーム手順を実行中は、高度を調整して、障害物を避けることができます。
- 水や雪などの反射面のすぐ上では、ビジョン・ポジショニング・システムの性能が影響を受けることがあるため、飛行させないでください。
- 低バッテリー警告が表示された場合は、機体を安全な場所に着陸させてください。
- 着陸後は、まずインテリジェント・フライト・バッテリーをオフにします。次に送信機をオフにします。
- TapFly™ (タップフライ) および ActiveTrack™ (アクティブトラック) 機能を使用すると、緊急時にいつでも機体を制御したり、画面上の[STOP](停止) ボタンまたは[Intelligent Flight Pause](インテリジェントフライト一時停止) を押すことができます。

4. メンテナンスと保管

- 古くなったり、欠けたり、損傷したプロペラは使用しないでください。
- 推奨保管温度: 22° ~ 28° C
- バッテリーの安全な使用に関する詳細情報については、『Mavic Pro インテリジェント・フライト・バッテリー安全ガイドライン』を参照してください。

5. 現地法および規制の順守

- 飛行不可ゾーンでは飛行させないでください。飛行不可ゾーンのリストは、<http://www.dji.com/flysafe> でご覧いただけます。
- DJI が指定する飛行不可ゾーンは、現地当局の規制や適切な判断に優先するものではありません。
- 救助チームが航空機を使って活動中の空域では飛行させないでください。



送電線や基地局などの強い電磁波域の近くでは、機内搭載のコンパスが影響を受けることがあるため、飛行させないでください。



注記

手順書および付属書はすべて、SZ DJI TECHNOLOGY CO., LTD 独自の裁量で変更されることがあります。最新の製品情報については、<http://www.dji.com> にアクセスし、Mavic Pro 製品ページをクリックしてご覧ください。

用語集

本製品の関連資料では、以下の用語で製品操作時に起こりうる危険のレベルを示しています。

[注記] 注記: 手順を正しく実行しないと、物的な損害が発生する可能性があります。負傷の可能性は全くないか、あってもごく軽微です。

[注意] 注意: 手順を正しく実行しないと、物的な損害が発生するとともに、重傷を負うおそれがあります。

[警告] 警告: 手順を正しく実行しないと、物的な損害、および巻き添え事故、人的な重大事故の可能性が発生するほか、高い確率で軽傷を負います。



警告

ユーザーマニュアル全文をよく読んで、機能に習熟してから、本製品を操作してください。本製品を正しく操作しないと、本製品や個人の財産の損害や重傷を引き起こすおそれがあります。

本製品は高度な機能を備えています。慎重かつ良識をもった操作とともに、基本的な機械知識が求められます。本製品を安全かつ責任をもって操作しないと、傷害や本製品またはその他の財産の損害を招くおそれがあります。本製品は、大人の監督下でない子供の使用を想定していません。互換性のないコンポーネントを使用しないでください。また、SZ DJI TECHNOLOGY CO., LTD が提供する資料に記載されていない方法で本製品を改造しないでください。本安全ガイドラインには、安全、操作、メンテナンスの手順を記載しています。本製品を正しく操作し、損害や重傷を避けるためには、組み立て、設定、使用を開始する前に、本ユーザーマニュアルに記載する手順と警告をすべて読み、これに従うことが重要です。

推奨年齢: 18 歳未満は対象外です。これは玩具ではありません。

フライト前チェックリスト

1. 純正部品のみを使用しており、すべての部品が新品同様の状態であるか確認します。
2. 送信機、インテリジェント・フライト・バッテリー、およびモバイルデバイスが完全に充電されているか確認します。
3. 電源をオンにする前に、カメラレンズに異物が付着しておらず、マイクロ SD カードがカメラに挿入されていて、ジンバルが自由に回転するか確認します。
4. プロペラがモーターにしっかりと取り付けられており、モーターが正常に始動

して機能することを確認します。

5. 画面に表示される指示に従って、コンパスのキャリブレーションを行ってください。
6. アプリと機体のファームウェアが最新バージョンにアップグレードされているか確認します。
7. 飛行エリアが飛行不可ゾーン外であり、飛行条件が飛行に適しているか確認します。
8. 飲酒時、服薬時など、認知能力が損なわれる可能性のある状態では、操作しないでください。
9. 選択したフライトモードに習熟し、すべての安全機能と警告を理解してください。
10. 現地規制をすべて順守しており、認可を適切に取得し、リスクを理解してください。確認事項：フライト規制の順守は、ユーザーの責任となります。

免責事項および警告

本製品は玩具ではありません。また、18歳未満を対象としていません。Mavic Pro は子供の手の届かない場所に保管してください。また、子供がいるところで機体を操作する場合は十分に注意してください。

本製品は、以下のように正常に操作できる状態であれば、簡単に飛行させることができる空撮用カメラです。最新の注意事項と警告については、<http://www.dji.com> をご覧ください。安全な飛行と法令順守の詳細については、<http://knowbeforeyoufly.org/> をご覧ください。

本書では、ユーザーの安全と法的権利と責任に関する情報を取り扱っています。ご使用前に、本書の全文を注意深くお読みになり、正しい設定をご確認ください。本書の手順と警告を正しく理解して実行しない場合、本製品の損失、ユーザーの重傷、機体の損傷を招くおそれがあります。

本製品を使用すると、本書の免責事項を注意深く読み、記載される条件を理解し、これを順守することに同意したとみなされます。本製品の使用中の行動とこれに伴う結果には、ユーザーが全面的に責任を負うことに同意するものとします。飛行に関する国際規制と国内規制をはじめとする適用法、規則および規制を順守して本製品を使用するとともに、DJI™ がこれまでに提供し、今後提供する資料の全条件、安全上の注意、慣習、方針およびガイドラインに従うことに同意するものとします。

本製品の使用により直接または間接的に発生する損害、傷害に対して、DJI は一切責任を負いません。ユーザーは、本安全ガイドラインの規定（ただしこれに限定しない）をはじめとする、安全で合法的な慣習を順守するものとします。

データの保管と使用法

当社のモバイルアプリ、製品、その他のソフトウェアの使用、フライトテレメトリデータ（速度、高度、バッテリー寿命、ジンバルとカメラに関する情報）と操作記録など、製品の使用と操作に関するデータを DJI が指定するサーバーに自動または手動でアップロードして、保存することができます。本製品の内蔵ストレージデバイスにも、フライトテレメトリデータなどの各種データを保存できます。内蔵ストレージデバイスから手動で情報を転送して、フライトテレメトリデータなどのデータを当社サーバーに保存することもできます。

機体を使用しているときに、フライトテレメトリデータおよび操作レコード（機体に装備された 1 基以上のセンサーからの静止画および動画データなど）が自動生成されて内蔵ストレージデバイスに保存されることがあります。また、フライトテレメトリデータや操作レコードなどのデータを当社のサーバーに保存する場合は、当該情報を内蔵ストレージデバイスから手動で送信するか、内蔵ストレージデバイスをお送りください。

当社サーバーに自動または手動でアップロードする情報には、個人データ（名前、住所、電子メール、または個人を特定できるその他の情報）を含めないでください。ただし、アップロードされた情報の保存時に、識別のためにユーザー名などの個人データを関連づけたり、タグ付けしたりすることがあります。ユーザー名などの個人データの取り扱いについては、当社のプライバシーポリシーに別途記載があります（<http://www.dji.com/policy>）。本製品や当社が配布するモバイルアプリなどのソフトウェアを使用する、または当社サーバーに手動でデータをアップロードすると、以下に同意したとみなされます。

- 当社ストレージにアップロードまたは提供したフライトテレメトリデータやその他のデータ（ユーザー名と組み合わせたものも含む）を当社内で保管する
- サポートやサービス提供の一環として、製品改善の目的でアップロードまたは提供されたデータ（ユーザー名を含む）を当社で利用する
- 当社代理人や請負業者にアップロードまたは提供されたデータ（ユーザー名を含む）を開示して、そのデータを当社の代理または当社との関係に関連して、利用する
- 法律の定めるところにより（公共安全、政策）、または当社事業資産の譲渡に関連して、あるいは当社の権利や財産を保護するため、データ共有が必要と誠実に判断した場合、アップロードまたは提供されたデータ（ユーザー名を含む）を開示する

DJI は、この免責事項と安全に関するガイドラインを更新する権利を保持します。定期的に www.dji.com にアクセスし、また電子メールをチェックして、最新版をご確認ください。この免責事項は、複数の言語でご提供しています。言語版によって違いがある場合には、英語版が優先されます。

使用を開始する前に

Mavic Pro を安全に操作し、十分に活用していただくため、以下の資料をご用意しています。

同梱物

免責事項および安全に関するガイドライン

インテリジェント・フライト・バッテリー安全ガイドライン

クイックスタートガイド

ユーザーマニュアル

同梱された資料に記載されている部品をすべて確認して、フライト前に免責事項と安全ガイドラインを読みます。次に、クイックスタートガイドと DJI 公式ウェブサイト (<http://www.dji.com>) でチュートリアルビデオをすべて視聴して、初フライトの準備をします。ご不明な点があれば、アプリまたは DJI 公式ウェブサイトのユーザーマニュアルで包括的な情報をご覧ください。フライト前に、各部の機能、フライトの必須条件、主な緊急警告機能／システム、政府所管官庁の規制をすべて十分に理解しておくようにしてください。本製品の組み立て、メンテナンス、使用で不明な点や問題がある場合は、DJI または DJI 正規販売店にお問い合わせください。

各部部品

純正部品と機能部品について



警告

パーツの不具合・重傷事故・物的損害を避けるため以下の規則を順守してください。

1. 必ず DJI の純正部品または DJI が認定する部品をお使いください。非正規の部品や DJI 認定メーカー以外が製造した部品を使用すると、システムに不具合が発生し、安全性を損なうおそれがあります。
2. 機体やパーツ内に異物（水、オイル、土、砂など）がないか確認します。
3. 機体とコンポーネント（送信機、カメラ、ジンバル、コンパス、推進システム、バッテリーなど）がすべて問題なく作動し、損傷がなく、十分に機能するか確認します。パーツの機能を確実に維持する方法の詳細については、本書の他のセクションを参照してください。

送信機

注記

1. フライト前に、送信機が完全に充電されているか、必ず確認してください。

2. 送信機の電源がオンの状態で 5 分間操作されないと、アラートが鳴ります。10 分経過すると、自動的に電源がオフになります。スティックを動かすか、他の操作を実行して、アラートをキャンセルします。
3. モバイルデバイスをしっかりと支えられるよう、モバイルデバイス・ホルダーのクランプを調整します。
4. モバイルデバイス・ホルダーが滑らないよう、しっかりと固定されているか確認します。
5. 送信機のアンテナを展開し、最適な伝送品質を達成できるよう正しい位置に調整します。
6. 送信機に損傷があれば、修理するか、交換します。送信機アンテナに損傷があると、性能が大幅に低下します。
7. 送信機またはレシーバを交換したり新しい送信機を追加したりする場合には、リンクが必要です。詳細については、ユーザーマニュアルを参照してください。

カメラ

注意

予想される重傷事故や物的損害を避けるため、以下の規則を順守してください。

1. カメラの通気孔をふさがないでください。熱が発生して、負傷や機器の損傷を引き起こすおそれがあります。

注記

1. 使用前にカメラ設定を確認して、ニーズに合わせて調整できるか確認します。
2. カメラをテストします。重要な写真やビデオを撮影する前には、テスト画像を何枚か撮影して、カメラが正常に作動するか確認します。
3. カメラの電源がオンの場合は、Micro SD カードを抜かないでください。
4. インテリジェント・フライト・バッテリーの電源がオフの場合は、写真やビデオをカメラから転送したりコピーできません。
5. インテリジェント・フライト・バッテリーの電源は必ず正しい手順でオフにしてください。誤った手順で電源をオフにすると、カメラのパラメータが保存されず、録画されたビデオが損傷するおそれがあります。注記：理由の如何を問わず、機械が読み取れない方式で記録される、または記録された画像やビデオの不具合に対して、DJI は一切責任を負いません。

ジンバル

注記

1. 衝突や衝撃によりジンバルの部品が損傷する可能性があり、それによりジンバルの機能が異常を示すことがあります。

2. ジンバルの電源をオンにした後は、ジンバルに力をかけないでください。
3. ジンバルに負荷をかけないでください。ジンバルの機能異常やモーターの損傷を引き起こすおそれがあります。
4. ジンバルの電源をオンにする前に、ジンバルクランプを取り外します。機体を長期間保管する場合には、ジンバルクランプを再度取り付けて、ジンバルを固定します。

コンパス

注意

予想される重傷事故や物的損害を避けるため、以下の規則を順守してください。

1. 機体がまっすぐに飛行できないなど、フライト中に激しいドリフトが発生した場合には、すぐに着陸させてください。

注記

コンパスの校正は、DJI GO アプリまたはステータスインジケータから促された場合にのみ行ってください。コンパスの校正を実施するときは次のルールを順守してください。

1. 磁鉄鉱、駐車場ビル、補強鋼を使用した地下階層など強い磁性干渉を受ける可能性のある場所でコンパスのキャリブレーションを行わないでください。
2. キャリブレーション中には、携帯電話などの強磁性体を身に着けないでください。
3. DJI GO アプリは、キャリブレーション完了後に強力な干渉によりコンパスが影響を受けた場合、コンパスの問題を解決するよう確認メッセージを表示します。出された指示に従ってコンパスの問題を解決してください。

推進システム

警告

回転中のプロペラとモーターにより、操縦者や周囲の人が重傷を負わないよう、以下の規則を順守してください。

プロペラ

1. 欠けたり損傷したり古くなったプロペラを使用しないでください。
2. 必ず機体の電源をオフしてから、プロペラに触れてください。
3. プロペラを取り付ける、または取り外す際には、プロペラの鋭い先端に気を付けてください。プロペラに触れる際には、手袋を着用するなどの保護対策を講じてください。

4. 必要な場合は、工具（レンチ、スクレュードライバ、ペンチなど）を使って、プロペラの取り外しまたは取り付けを行います。
5. プロペラがモーターから脱落しないよう、しっかりと取り付けられているか確認します。
6. プロペラを取り付けた状態で、付近に他の人や動物がいる場合には、モーターの電源をオンにしないでください。

モーター

1. モーターがしっかりと取り付けられ、スムーズに回転するか確認します。
2. モーターの構造を改造しないでください。
3. フライト後、モーターが高温になっていることがあるため、モーターに触れたり、手や体が接触したりしないようにしてください。

注意

予想される重傷事故や物的損害を避けるため、以下の規則を順守してください。

1. モーターの通気孔を塞がないでください。
2. 機体の通気孔を塞がないでください。

注記

モーター

1. モーターにほこりが付かないようにしてください。
2. モーターが動かず、自由に回転しない場合は、CSC（コンビネーションスティックコマンド）を実行して、モーターを緊急停止します。

電子速度コントローラ

1. ESC の電源をオンにして、動作音が正常か確認します。

アプリ

注記

1. アプリを起動する前に、モバイルデバイスを完全に充電しておきます。
2. スマートフォンをモバイルデバイスとして使用している場合は、電話に着信があっても安全に飛行を続けられるようにしてください。フライト中には、通話着信を決して受けないでください。
3. 画面に表示される安全性に関するヒント、警告メッセージ、および免責事項をよくお読みください。お使いの地域の関連規制を確実に理解しておいてください。ユーザーには、関連規制をすべて認識のうえ、これを順守して飛行する責任があります。
 - a. 自動離陸と自動着陸機能を使用する前に、警告メッセージを読んで理解しておいてください。

- b. デフォルトの制限よりも高い高度に設定する前に、警告メッセージと免責条項を読んで理解しておいてください。
 - c. フライトモードを切り替える前に、警告メッセージと免責条項を読んで理解しておいてください。
4. アプリにアラートが表示された場合は、機体をただちに着陸させてください。
 5. アプリに表示されるチェックリストで、すべての警告メッセージを必ず確認してから、フライトしてください。
 6. これまでに機体の操作をしたことがない場合、または機体を快適に操作するのに十分な経験がない場合には、アプリのシミュレータを使って、フライトスキルを向上させてください。
 7. アプリを初めて起動する場合は、ビギナーモードがデフォルトで有効になっています。ビギナーモードで飛行する場合、機体の高度とフライト距離に制限があります。フライトスキルに精通できるよう、ビギナーモードで飛行することを推奨します。十分なフライトスキルを習得したと自信を持てる状態になってから、実際の機体を操作してください。
 8. フライト前にインターネットに接続して、必ず飛行地域の地図データをキャッシュしてください。

ファームウェア



警告

子供や動物が重傷を負わないよう、以下の規則を順守してください。

1. ファームウェアのアップグレード、システムキャリブレーション、パラメータ設定の作業中は、安全確保のため、子供や動物を近づけないでください。

注記

1. 安全のため、ファームウェアのアップグレード通知がアプリに表示された場合は、必ず最新バージョンに更新してください。
2. ファームウェアのアップグレード通知ではすぐにファームウェアを更新するか、3日以内に更新するよう要求されます。現在のファームウェアアップデートを無視する選択をすると、免責条項が表示され、これに同意する必要があります。フライトテレメトリデータやユーザー選択レコードをはじめとするデータ（ただしこれに限定しない）を、DJI が指定するサーバにアップロードして、保存することも理解して、同意するものとします。
3. DJI 公式ウェブサイトからファームウェアパッケージファイルをダウンロードしてください。アップグレード前に、ファームウェアパッケージファイルの完全性を確認します。
4. 機体のファームウェアを更新した後は、必ず送信機のファームウェアを最新バージョンに更新してください。

5. 更新後、送信機と機体とのリンクが切れる場合があります。その場合、送信機と機体を再リンクします。
6. ファームウェア更新を実行する前に、接続をすべてチェックし、モーターからプロペラを取り外してください。

内蔵ストレージデバイス

注 記

1. 機体には、データや操作レコード（機体に装備された 1 基以上のセンサーからの静止画および動画データなど）を保存できる内蔵ストレージデバイスが搭載されています。静止画および動画データは、機体を操作しているときに 1 基以上のセンサーから自動生成されることがあります。
2. 操作中に機体により画像データが自動生成される可能性があるため、プライバシーの侵害につながる場所では機体を操作しないでください。

本製品の手入れ

保管と輸送

警告

子供や動物が重傷を負わないよう、以下の規則を順守してください。

1. ケーブルやストラップなどの小さい部品を飲み込むと危険です。部品はすべて、子供や動物の手の届かない場所に保管してください。

注 記

1. 内蔵の LiPo バッテリーが過熱しないよう、インテリジェント・フライト・バッテリーと送信機は直射日光の当たらない、涼しくて乾燥した場所に保管してください。3 ヶ月以上の長期間にわたって保管する場合には、22 ~ 28 °C の保管温度を推奨します。温度が -20 ~ 45 °C の範囲を超える環境では保管しないでください。
2. カメラは水などの液体に接触させたり、浸さないでください。カメラが濡れた場合には、柔らかく吸水性の高い布で乾拭きします。水に落ちた機体の電源をオンにすると、コンポーネントに回復不能な損傷が発生するおそれがあります。アルコール、ベンゼン、シンナーなどの可燃性物質を含有するものをカメラのクリーニングや保守に使用しないでください。湿気や埃の多い場所にカメラを保管しないでください。
3. 本製品はバージョン 2.0 よりも古い USB インターフェイスに接続しないでください。本製品を「USB 電源」や類似の機器に接続しないでください。

メンテナンスと保管

注記

1. 墜落や激しい衝撃を受けた後には、機体の各部を確認してください。問題や不明な点がある場合、DJI 正規販売店にご連絡ください。
2. バッテリーレベルインジケータを定期的に確認して、現在のバッテリーレベルとバッテリー寿命全体を確認します。バッテリー寿命が 0 % に達したら、もう使用できません。

フライトの必須条件

気象条件と周辺環境

警告

機体は、穏やかな気象条件で正常に動作するように設計されています。墜落、重傷事故、物的損害を回避するため、以下の規則を順守してください。

1. 悪天候時に機体を使用しないでください。厳しい気象条件とは、風速 10 m/s 超、雪、雨、スモッグ、強風、霰、雷、竜巻やハリケーンなどです。
2. フライト時には、機体を障害物、人、動物、建造物、公共インフラ、樹木、水域から 10 m 以上離してください。高度が上昇するに従って、障害物の上部からさらに離れます。
3. 機体を屋内で操作する場合には、特に注意してください。

注記

1. 機体やバッテリーの性能は、空気密度や気温などの環境要因に左右されます。海拔 5,000 m より高い環境で飛行させる場合は、バッテリーと機体の性能が低下する可能性があるため、細心の注意を払ってください。
2. 事故、火災、爆発、洪水、津波、雪崩、地滑り、地震、粉塵、砂嵐の環境下では、機体を使用しないでください。

フライトコントローラ、通信、ポジショニングシステムとの干渉

注記

1. 屋外で飛行させてください。高いビルや鉄骨の建物は、機体内に搭載するコンパスや GPS 信号の精度に影響を及ぼすおそれがあります。
2. 送信機と他のワイヤレス機器との干渉を避けてください。モバイルデバイスの Wi-Fi を必ずオフにしてください。
3. 磁性干渉や無線干渉のある地域周辺で飛行させないでください。こうした地域には高電圧線、大規模送電局、モバイル基地局、放送塔などがありますが、

これらに限定されません。磁性干渉や無線干渉のある地域を避けない場合、本製品の伝送品質の低下、送信機およびビデオ伝送のエラーが発生するおそれがあり、その場合、フライト方向と位置精度に影響することがあります。過度な干渉がある地域では、機体が異常な挙動をしたり、制御したりできなくなることがあります。

責任をもった機体操作



警告

重傷事故や物的損害を回避するため、以下の規則を順守してください。

1. 飲酒、服薬、麻酔などの影響はないか、めまい、疲労、吐き気などの症状がないか、あるいは身体的、精神的に、機体を安全に操作する能力が損なわれていないかを確認します。
2. 着陸したら、まず機体の電源をオフにし、次に送信機のスイッチをオフにします。
3. 機体を落下、打ち上げ、発射したり、危険な積荷を積載したり、建物、人、動物に向けて操作しないでください。これにより、人的傷害や物的損害が生じるおそれがあります。

注記

1. 十分なトレーニングを受けており、事故が発生する以前に、緊急時対応策をすべて認識しているか確認します。
2. 飛行計画が策定されており、無謀な飛行ではないか確認します。
3. カメラの使用時には、他者のプライバシーを尊重してください。現地のプライバシー法規制と道徳的規準を必ず順守してください。
4. 一般的な個人使用以外の理由で本製品を使用しないでください。違法な目的や不適切な目的（スパイ行為、軍事作戦、不正捜査など）に使用しないでください。
5. 本製品を中傷、虐待、嫌がらせ、ストーキング行為、脅迫など、他人の法的権利（プライバシー権やパブリシティ権など）を侵害する行為に使用しないでください。
6. 他人の私有地に侵入しないでください。

フライトモード、機能と警告

フライトモード

警告

重傷事故や物的損害を回避するため、以下の規則を順守してください。

1. 各フライトモードでの機体の挙動を十分に習得していないかぎり、P モードから S モードに切り替えないでください。GPS が無効化され、機体を安全に着陸させられないおそれがあります。

注 記

ほとんどのフライトシナリオには、P モードまたは S モードが適しています。Atti モードで飛行している場合は、一部の機能を利用できないため、十分に注意してください。

1. P モード (位置決め) : GPS 信号が強い場合は P モードの作動が最適です。GPS および障害物検知システムを利用して、機体を自動的に安定させ、障害物間を操縦したり動く対象物を追跡したりできます。このモードでは、TapFly (タップフライ) や ActiveTrack (アクティブトラック) などの高度な機能が有効になります。
2. S モード (スポーツ) : S モードは GPS 設定に関しては P モードと同じですが、S モードでは障害物検知システムが無効になります。また、機体の操縦性を向上させるために、機体のハンドリングゲイン値が調整されます。

GPS 信号が弱くなり、照明条件が障害物検知システムの要件を満たさなくなると、機体は自動的に Atti モードに切り替わります。機体が高度を安定させられるのは、Atti モードで使用する、インテリジェントフライト機能を無効にした場合のみです。

フェイルセーフと RTH (Return-to-Home)

注 記

1. GPS 信号が不十分な場合、または GPS が有効ではない場合、RTH 機能は使えません。
2. 機体をホームポイントに戻すには、送信機をオフにするのではなく、送信機の RTH ボタンを押します。
3. 高層ビルは、フェイルセーフ機能に悪影響を及ぼすことがあります。ホームに戻るまでに障害物を避けられるよう、機体の位置、高度および速度を調整してください。
4. 機体は常に送信機の伝送域内で飛行させてください。
5. フェイルセーフおよび RTH 機能は天候、環境、周辺の磁場の影響を受けます。

とがあるため、緊急時のみ使用してください。

6. 照明条件が十分でない場合は、フェイルセーフ RTH 実行中に機体が障害物を避けられないため、フライト前に適切なフェイルセーフ高度を設定しておくことが重要です。
7. 屋内で飛行させる場合、模様が明瞭でない地表の上空を飛行させることになるため、機体は高精度でホバリングできません。屋内での飛行基準については、「ビジョン・ポジショニング・システム」のセクションを参照してください。

低バッテリー

注記

1. 重大なバッテリー低レベル警告が起動して機体が自動的に降下するとき、スロットルを押し上げて機体の高度を維持して、より適切な着陸地点へ機体を誘導することができます。
2. バッテリーに関する警告が発信された場合には、機体をホームポイントに速やかに戻すか着陸させてください。そうしないとフライト中に電池切れになり、機体の損傷、物的損害、動物や人への傷害が発生するおそれがあります。

ビジョン・ポジショニング・システム

注記

1. ビジョン・ポジショニング・システムは、模様の変化がない地表の上空では適切に機能しません。ビジョン・ポジショニング・システムが正しく機能する有効高度は地上 (AGL) 13 m 未満です。
2. 機体が水面の上空を飛行している場合は、ビジョン・ポジショニング・システムが適切に機能しないことがあります。
3. ビジョン・ポジショニング・システムが有効な状態では、ソナーセンサーから一部の動物のみに聞こえる高周波音が発生するため動物を機体に近づけないでください。
4. 機体が過度に高速または低速で飛行している場合は、ビジョン・ポジショニング・システムが適切に機能しないことがあるのでご注意ください。
5. 以下のいずれかの状況では、機体を慎重に操作してください。
 - a. モノクロ黒一色白一色赤一色緑一色などの地表の上空を飛行させる場合。
 - b. 反射率が高い地表面上を飛行させる場合。
 - c. 高速(高度 2 メートルで 10 m/s 以上、または高度 1 メートルで 5 m/s 以上)で飛行させる場合。
 - d. 水面または透明な地表の上空を飛行させる場合。
 - e. 動く面または物体の上空を飛行させる場合。

- f. 照明が頻繁または急激に変化するエリアを飛行させる場合。
 - g. 非常に暗い(10ルクス未満)面や非常に明るい(10,000ルクス超)地表の上空を飛行させる場合。
 - h. 音波を吸収する(厚いカーペットなど)面の上空を飛行させる場合。
 - i. はっきりした模様や構造のない面の上空を飛行させる場合。
 - j. 同じ模様や構造が繰り返している(同じデザインのタイルなど)地表の上空を飛行させる場合。
 - k. 音波を機体から偏向する斜面の上空を飛行させる場合。
6. 機体が墜落した場合は、カメラのキャリブレーションが必要です。DJI GO アプリから要求された場合は、前面カメラをキャリブレーションします。

TapFly(タップフライ)

注意

重傷事故や物的損害を回避するため、以下のガイドラインを順守してください。

1. 人、動物、小さくて細い物体(木の枝や電線など)、透明な物体(ガラスや水など)に向かって飛行するよう機体に指示しないでください。
2. 周辺エリア(特に機体の後方、左右)に障害となりうるものがないか十分に注意し、事故を防ぐために回避してください。
3. 緊急時にはいつでも、機体を制御するか、画面上の[STOP](停止)ボタンまたは[Intelligent Flight Pause](インテリジェントフライト一時停止)ボタンを押すように準備しておいてください。

注記

1. TapFly(タップフライ)を選択すると、期待されるパスが異なる場合があります。
2. 画面上で選択可能な範囲は限られています画面の上下端付近では TapFly(タップフライ)を選択することはできません。
3. 機体を水面や積雪エリアの上空を飛行させる場合は、TapFly(タップフライ)モードが適切に機能しないことがあります。
4. 非常に暗い(300ルクス未満)環境や非常に明るい(10,000ルクス超)環境で飛行させる場合は、特に注意してください。

ActiveTrack(アクティブトラック)

注意

重傷事故や物的損害を回避するため、以下のガイドラインを順守してください。

1. 目的のトラッキングパスに沿って人動物小さくて細い物体木の枝や電線など、透明な物体(ガラスや水など)がないか確認します。

2. 周辺エリア (特に機体の後方、左右) に障害となりうるものがないか十分に注意し、事故を防ぐために回避してください。
3. 緊急時にはいつでも、機体を制御するか、画面上の [STOP] (停止) ボタンまたは [Intelligent Flight Pause] (インテリジェントフライト一時停止) ボタンを押すように準備しておいてください。
4. 逆方向に ActiveTrack (アクティブトラック) を実行する場合は、機体の後方に障害物がないか確認します。

注 記

1. 以下のような状況で ActiveTrack (アクティブトラック) を使用する場合は、特に注意してください。
 - a. トラッキング対象物の動きが水平面上でない。
 - b. トラッキング対象物が動きながら急激に形状を変える。
 - c. トラッキング対象物が長時間遮られているか見えない所にある。
 - d. トラッキング対象物が積雪エリアにある。
 - e. 照明が非常に暗い (300 ルクス未満) または非常に明るい (10,000 ルクス超)。
 - f. トラッキング対象物が周囲の環境と似たような色や模様である。
2. ActiveTrack (アクティブトラック) を使用する場合は、必ず現地のプライバシー法規を順守してください。

規制順守と飛行不可ゾーン

規制



警告

法令不履行、重傷事故、物的損害を避けるため、以下の規則を順守してください。

1. 高度に関係なく、有人の航空機周辺で操作しないでください。(必要であれば、速やかに着陸してください)
2. 都市部、スポーツイベント、展示会、公演など、多くの人が集まる地域では飛行させないでください。
3. 認可を受けた高度を超えて飛行させないでください。有人の航空機の航路から十分な距離を保ち、運行を妨げないでください。常に他の航空機や障害物に注意して、回避してください。

注 意

法令不履行、重傷事故、物的損害を避けるため、以下の規則を順守してください。

1. 現地法および規制に指定された飛行不可ゾーン内やその近くでは機体を飛行させないでください。飛行不可ゾーンには、空港、2つの主権国または地域の国境、大都市/地域間の境界などがあり、常に更新されています。

2. 認可を受けた高度を超えて飛行させないでください。
3. 常に機体を視界内に捉え、必要であれば、立会者に支援を要請します。
4. 違法または危険な物品／貨物の運搬に機体を使用しないでください。

注 記

1. 実施するフライトの内容／種類（レクリエーション、公共利用、商業的使用など）を理解して、関係所管庁から飛行に関連する承認と認可を受けているか確認してから、フライトしてください。包括的な定義と個別の要件については、現地の規制当局にお問い合わせください。米国で機体进行操作する場合、まず <http://www.knowbeforeyoufly.org/> にアクセスして、状況に適切な措置を講じてください。
2. 特定の国と地域では、リモート制御の航空機を使った商業活動を禁止している場合がありますので、ご注意ください。実際の規則が本書の記載と異なることがあるため、フライト前に現地の法規制や条例をすべて確認し、これに従ってください。
3. 発電所、水処理施設、矯正施設、交通量の多い道路、政府施設、軍事用ゾーンなど慎重な対処が求められる基幹施設や敷地周辺を飛行しないでください。
4. カメラの使用時には、他者のプライバシーを尊重してください。いかなる人物、団体、イベント、パフォーマンス、展示会、敷地においても、認可を受けないかぎり画像撮影やビデオ録画などの調査を実施しないでください。個人的目的で画像やビデオを撮影する場合でも、プライバシーに関わる場合には、同様の配慮が必要です。
5. 特定の地域では、イベント、パフォーマンス、展示会、商用の不動産物件の画像またはビデオをカメラで記録する場合に、たとえ個人使用の目的であっても、著作権またはその他の法的権利を侵害することがありますのでご注意ください。

飛行不可ゾーン

注 記

DJI は常にフライト中の安全を重視しており、ユーザーが現地規則と規制を順守して飛行できるよう、さまざまな補助ツールを開発しています。当社は、ファームウェアを最新バージョンに更新して、以下の機能がすべて更新されているか確認するよう、強く推奨します。

飛行不可ゾーン

1. 飛行不可ゾーンには、世界各地の主要な空港、2 つの主権国間の国境または地域間の境界、主要都市／地域間の境界線などがありますが、これに限定されません。
2. 飛行不可ゾーンの完全なリストは DJI 公式ウェブサイト

(<http://flysafe.dji.com/no-fly>)に掲載されていますが、最新の規制要件に従って予告なしに断続的に更新されます。

3. 一部の飛行不可ゾーンは、複数のゾーンで構成されています。各ゾーンは、さまざまな大きさの円で示されます。機体は飛行不可ゾーンの最も内側のゾーンでは離陸が禁止されており、最も内側のゾーンの境界部に向かうほど、指定高度まで降下させます。飛行不可ゾーン内では、グランドステーション機能が無効になります。
4. 飛行不可ゾーン内では、ウェイポイントを設定できません。

高度制限

1. 地面より 120 m ほどの高度を飛行して、周辺の障害物からの距離を保ちます。
2. デフォルトの高度制限を超えて飛行しようすると、新しい高度制限を有効にするよう免責条項が表示され、これに同意する必要があります。新しい高度制限が設定された際には、フライトテレメトリデータ、高度制限変更などのデータが DJI が指定するサーバーにアップロードされ、保存されることを理解し、これに同意するものとします。

本内容は変更されることがあります。

最新版は下記よりダウンロードしてください。

www.dji.com/support

If you have any questions about this document, please contact DJI by sending a message to **DocSupport@dji.com**.

MAVIC™ は DJI の商標です。

Copyright © 2016 DJI All Rights Reserved.

Printed in China.